

『教育におけるユニバーサルデザイン—使える！わかる！つながる！—』

教育学部企画代表 岡崎裕子

博物館秋季特別展を2019年9月30日から11月19日までの日程で開催しました。メインテーマは『教育におけるユニバーサルデザイン (UD)』とし、教育学部が企画を担当しました。

ユニバーサルデザイン (UD) はすべての人のためのデザインを意味します。障がいの有無、年齢、性別、国籍等にかかわらず、多様なそしてできるだけ多くの人が利用できるよう、都市や生活環境をあらかじめ（計画段階から）デザイン（設計）するという考え方です。その始まりは施設・設備といったハード面が中心でしたが、現在では計画及びサービスといったソフト面の内容も含むさまざまな分野に広がっています。

教育においても、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた取り組みに最近注目が集まっています。なぜユニバーサルデザインの考え方が必要とされるのか、その意味・役割を考える機会となるよう今回の展示を企画しました。

展示会場には7つのコーナーを設置しました。

「教科書と UD」「本・絵本と UD」「文具と UD」「カラーユニバーサルデザイン (UCD)」「フォント（書体）と UD」「コミュニケーションアプリ」「学びのユニバーサルデザイン (UDL)」

また、会場内には「体験コーナー」を設け、文具類の UD 製品や点字つきさわる絵本、マルチメディアデジ教科書（サンプル版）、コミュニケーションアプリ等を展示しました。実際に手に取り、また操作してみると使い心地や便利さが実感できると好評をいただきました。

特別展期間中の恒例「博物館講座」では今回、「教育現場のユニバーサルデザインと UD フォント（書体）」というテーマで、高田裕美氏（株式会社モリサワ 営業企画課公共ビジネス課）にご講演いただき、併せて岡崎裕子（教育学部教授）による UD ミニ解説を行いました。（10月26日開催）

今回の特別展及び博物館講座を開催するにあたり様々な方にご協力をいただきました。また、展示期間中には多くの方々にご来場いただきました。質問や感想を直接お伝えいただくこともあり、企画者としてたいへんうれしく、また励みになりました。

ご協力、ご来場いただいた皆様方に、心より御礼申し上げます。